

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300451		
法人名	社会福祉法人 みのり会		
事業所名	グループホーム みのり園		
所在地	宮崎県延岡市岡元町15-4		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&jirovosyoCd=4570300451-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自立支援と共に、散歩やラジオ体操、歩行訓練などでADLの維持に努めている。
 ○個人の尊厳を守り、園内においてもその人らしく生活して頂けるよう支援する。
 ○広報誌を通して、園内生活を知ってもらう事で、家族との安心感と共に信頼関係を築いている。
 ○併設施設で行われている地区合同の夏祭りやその他の行事に参加する事が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、「自立支援を心がけ、満足と安心を提供します。笑顔とやさしさを忘れず、尊厳と人権を守ります」というホームの介護理念を常に意識して、ケアの実践に努めている。職員は、利用者一人ひとりの個性や能力を尊重し、利用者が笑顔で生き生きと生活できるよう支援している。職場環境は良好で、法人内研修や外部研修は勤務として出席し、職員は資質の向上に積極的に取り組んでいる。法人の夏祭りや地域行事への参加、なじみの場所等へのドライブなど、利用者が地域との関係を継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念の中には「地域との交流」、「地域貢献」という言葉が明記され、職員はイベントや行事の参加に向け、連携・協力に計画を立て遂行している。	ホームの介護理念を更衣室に掲示し、常に意識づけしている。管理者と職員は自主研修で確認し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には厳しいが、地域イベントには参加するようにしている。また、夏祭りでは岡元地区と合同で行うことで、地域との交流・密着を図っている。	法人敷地内で地域の方がグランドゴルフをするのを見学したり、地藏さん祭りや大師祭り、七夕など、地域行事に利用者と参加し、地域との交流を図っている。近くの店や大型ショッピングセンターを買い物に利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設されている包括支援事業所が、認知症サポーター育成講座等で地区に支援者を育成するとともに、情報発信や認知症の理解など支援の輪作りを担っている為、当事業所独自には行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で提案、是正、指摘された事案は職員で話し合い、実行、あるいは実施する為の取り組みを行い、サービス向上を目指している。	会議で委員から提案された利用者一人ひとりのプロフィール表を作り、更に表が充実したものなるよう取り組んでいる。また、薬の一覧表についてもすぐに作成し、自主研修会で薬についての勉強会を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加する市職員に対して、GH家族へ配信している広報紙を手渡し、GHで行われているケア、取り組みを公開あるいは紹介している。	市の担当職員に相談したり、アドバイスをもらえる関係にあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設で設けられている拘束抑制防止委員会が中心となり、施設内の拘束防止に努めている。また、園内研修により、拘束について学習し、話し合ったりと、知識を深める場を設けている。	法人の拘束抑制防止委員会を中心に、法人全体で拘束防止に努めている。ホーム職員も法人内研修に全員が交代で出席し、拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望のある利用者には、付き添いや見守りにて対応し、言葉かけにも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止においても拘束抑制防止委員会が中心となり働きかけている。毎月行われる園内研修においても、理解を深める場を設け、理解する事で虐待の早期発見できる目を養っている。		

宮崎県延岡市 グループホームみのり園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修等で知識を深め、必要あるいは必要の可能性がある家族に対してはそれらの説明と共に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際には重要事項あるいは分かりにくい事項においては繰り返し説明したり、確認をしながら、次へ進める等の配慮を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者においては聞き取りを、利用者の家族等の来園者においては意見書箱の設置やアンケートの配布により、意見を反映させる為の取り組みを行っている。また、利用者・家族が参加しており、その場において意見を出してもらうことで、運営に反映させている。	利用者や家族が意見や要望を表しやすいような働きかけを行っている。出された意見はミーティング等で話し合い、職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はGH内の職員で行うミーティングを通して、意見、提案をし、それを管理者より主任者会議などを通して、代表者等に提案することができる。	職員閲覧ノートを作成し、情報の共有や伝達に活用している。ホームの業務の流れに沿って、忙しい時間帯や休憩時間帯等の勤務時間の調整についての意見があり、現在検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては規程集に記載しており、職員に俸給を掲示している。さらに、今年度よりキャリア段位制度を導入・検討し、さらなる意欲向上を図っている。また、施設内の交流会を実施する事で、慰労とともに仕事への意欲がわく取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修においては、年間72時間の研修を設けており、園外研修においても、積極的に参加する機会を設けている。その研修において、より一層の知識を深めると共に、新しい知識を養えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHの勉強会において知識を深めるだけでなく、他事業所(他施設)と交流し、意見・情報交換を行う事で、サービスの質の向上を目指している。その他の外部研修にも積極的に参加し、交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にはなるべく付き添い、表情を含め、見守る事で、不安や寂しさを早い段階で取り除けるように支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員の方から歩み寄り、意見・要望を聞く事で家族に安心感を与え、信頼関係の早期構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から意見・要望を聞き、職員間で話し合い、必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理したり等、職員と利用者が一緒に作業する事で、職員と利用者の一体感を感じてもらい、一緒に生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があった際には事細かに連絡し、現状報告と共に相談も行い、時には情報提供やその他依頼を行う等、共に支援する関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他事業所を利用しているなじみの人との面会、ドライブでなじみの場所や店を利用することによって、関係が途切れないように努めている。	デイサービスの利用者との交流やふるさと訪問、法話を聞いたり、ボランティアの訪問受け入れなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別支援のほかにも同様の趣味等で、共同作業・共同でレクリエーション活動を行う事も支援している。その中で、一人で作業するような事柄であったとしても声掛けしたり、他利用者との交流を図る等、孤立しないように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・他事業所への移動の際には、ケアに必要な事項の情報提供を行い、スムーズなケアの移行を推進する。また、必要に応じて相談に乗る等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に対し要望を聞ける人は聞き取り、困難な人においても、生活歴や園生活を基に、本人本位のケアを検討している。	利用者の何気ない一言を大切にしている。24時間シートに気づきを記入し、プロフィール表に活用させている。思いや意向を表出しにくい利用者には、職員から声かけを行い、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	9年度の運営推進会議での議題に挙げたこともあり、利用者一人ひとりのプロフィール作りに取り組んでいる途中である。また、カンファレンス時や面会時、電話連絡時にも、その都度気になる生活歴を聞くなど、さらなる把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの園生活においては、個人台帳に記録している。その中には心身の変化等の細かな変化を入力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの在り方については、月に一度のミーティングの中で必ず話し合い、それを基にカンファレンス時、さらには面会時においても家族の意見・要望など聞き、意見を反映させている。	モニタリングは毎月ミーティングで話し合っている。職員閲覧ノートで情報を共有し、電話や来訪時に家族からの聞き取りを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳に日々の様子を含め記録している。また、職員間においては、口頭による申し送りのほか、職員閲覧用ノートの作成などにより、情報の共有・伝達に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、職員間で話し合い、協力する事で(できる範囲内で)対応している。必要に応じて、他事業所の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店での買い物など、本人を交えた地域とのかかわりが出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は今までのかかりつけを最優先してもらい、時には病院受診の際にサマリーや血圧表、その他情報提供を行う等、かかりつけ医との連携を図っている。	法人の協力医をかかりつけ医にしている利用者は、協力医が往診で対応している。その他のかかりつけ医受診は家族が対応しているが、情報を提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいなことでも施設内の看護職へ相談、報告し、指示を仰いだりと連携し、利用者の変化に対し、早期発見、早期対処に努めている。また、家族への現状報告の際にも、看護職より説明してもらおう等、家族との信頼関係も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー等による情報提供を行い、その後は生活相談員が窓口となり、病院関係者との情報交換などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレン時に終末期に関する意向の確認を行っている。早い段階からグループホームで出来る事を説明して、方針を共有している。	重度化した場合における看取り指針を作成し、ターミナルケアについての基本理念とホームにおける看取り介護の具体的内容を示している。看取り介護についての同意書に署名・押印し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルが備えつけられている他、園内研修やAEDの使い方を外部講師を招いて学んだり、急変時に備えての準備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、特に火災を想定した避難訓練を昼夜共に行っている。時には実際に消火器を使つての消火訓練も行っている。	消防署も参加して、法人の合同訓練を年1回開催している。消防団も夏祭り参加を通じて連携が取れている。毎月、災害対策訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を守ることをミーティング等で職員間で確認するとともに、施設内においても、園内研修において、定期的に言葉遣いなど尊厳を再確認する講義が設けられている。	法人の接遇園内研修が午前中に開催され、職員は交代で勤務時間内に出席している。夜間研修や外部研修などでも接遇について学び、ケアの実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の決定や作業の選択など、自己決定の場を設けている。また、時にはゆっくりと話す時間を設け、何がしたい、どこに行きたいか等を問いかけ、希望を聞く機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で連携し、利用者のペースでなるべく希望に添えるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択のほか、各利用者に櫛を準備したり、時にはお化粧の支援も行っており、おしゃれができるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮をむく、切る、焼く等の自己のレベルに合わせ役割分担し、作ったり、盛り付けしたり、配膳したりと、職員と利用者と一緒に準備を行っている。	米をといたり、調理の下ごしらえ、盛りつけや配膳・下膳などを利用者と共に行っている。栄養士が作成した献立の材料を、利用者と一緒に法人の厨房に取りに行っている。週1回予定されている選択メニューも利用者を選んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、施設の栄養士に託しているが、食事量については栄養士に相談しながら、一人ひとりの毎月の体重の増減に合わせ、量を調整している。また、毎食、摂取量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はなるべく自力での口腔ケアを行っていただいている。また、週三回、義歯洗浄剤を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、現在、全員布パンツを使用している。今後も継続できるよう支援していく。さらにパット使用者に対しても排泄間隔を把握し、トイレ内での排泄が出来るように声かけ・トイレ誘導を行っている。	排せつチェック表を活用し、トイレでの排せつを支援している。ポータブルトイレの利用者はなく、声かけと誘導、付き添い介助にて、全員トイレで排せつしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす体への影響を園内研修で学ぶ機会が設けられている。また、排便観察も行っており、嘱託医や看護職との相談のもと、個人にあった下剤を使用し、定期的な排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の意思を尊重し、無理強いせず、なるべく入りたい時間に、入りたいタイミングで入ってもらえるよう支援している。	月曜日から土曜日は、午後に毎日入浴が可能であるが、希望があれば柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の睡眠においては、個人の意思を最優先に尊重するが、日頃の生活や外出などを考慮し、声掛け休んでもらう事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、ある程度の効能等は一覧化し、詳細は処方箋等をファイルにとじるなどして、いつでも見れる状態にしてある。また、薬に疑問を持ち、看護職と相談するほか、家族を通じてかかりつけ医に相談したりする事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調査した生活歴にあった作業、レク活動による楽しみの他、個人に合った作業やレク活動をミーティング等で常に模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気などの条件により、外出が難しい日もあるが、職員間や他の職域、あるいは家族の協力依頼などによって、外出支援の試みは行っている。	日常的に法人の敷地内を散歩している。市内や近隣に定期的にドライブに出掛けている。墓参りなどの希望は家族に協力を依頼し、実行できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より金銭を預かっている利用者は、買い物や支援を行っている。また、家計簿を付けるなど、管理できるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話する支援を行っている。また、手紙においては毎年、年賀状の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内においては季節を感じて頂けるように、月二回行われている生け花の展示や季節に合わせて利用者が作成した作品の展示、季節を感じるような飾りの展示(ひな祭り、七夕祭り、クリスマスなど)を行っている。	ゆっくりくつろげるよう、食卓テーブルやソファが配置されている。加湿器やエアコンを活用し、快適に過ごせるよう配慮している。共用空間は季節の花や利用者の作品が展示され、居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自己決定を尊重し、自由に過ごしてもらうことがほとんどではあるが、言動や行動によっては、快適に過ごしてもらう為に誘導する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者本人にとって居心地の良く、安らげる場となるように、写真などを掲示したりしている。また、自立支援も兼ね、なるべく本人に掃除してもらっている。	家族の希望で和室を選択し、本人が布団の上げ下げをしている利用者もいる。写真やぬいぐるみ、ほうきや使い慣れたミシンを持ち込んでいる利用者もあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、浴室に手すりが取り付けられており、自立での排泄、入浴を支援している。また、表札を設置する事で、自分の居室が分かるようにしている。		